

ココロにサプリ

広報メディア研究所代表 上野 弘子

第158回

“かわいそうな人”から“チャレンジド”へ
社会福祉法人「プロップ・ステーション」

理事長 竹中ナミさんを訪ねて



開口一番「私のこと、ナミねえって呼んで。そうしてくれへんかったら返事せえへんからね」といって豪快に笑う竹中ナミさん(70歳)。

「はい、ナミねえ」と答えると、一気

に緊張が解けた。

障がい者を「チャレンジド」(挑戦するチャンスを与えられた人)と呼び、ICT(情報通信技術)を駆使してその自立と社会参加、特に就労を支援する社会福祉法人「プロップ・ステーション」を自ら設立。理事長として神戸本部(神戸市東灘区)と東京オフィスを行き来しながら、委員として内閣府、総務省、経産省、文科省など霞が関での多くの会議に出席。「すべてのチャレンジドを納税者に変えなあかん」と、独自の意見やアイデアを積極的に発信し続けている。

神戸市生まれ。物心ついた時には、世の中の常識やルールに反発していたという。

「小さい頃からじっとしてられへん子で、授業中も木に登ったり一人で鉄棒したりしてた。型にはめられたり、敷かれたレールに乗せられたりするのが嫌やったんやね」



昨年、京都・祇園のライブハウスで。ステージでよく歌うのは越路吹雪の「ろくでなし」、童謡「七つの子」、「スマイル」など

中学時代の趣味は家出と反抗。不良娘だったと振り返る。16歳の夏休み、アルバイト先で知り合った人と同棲し、高校を中退して結婚。転機となったのは次女の麻紀さんの誕生だった。生後間もなく重度の心身障がいと診断されると、父が「この子がいたらおまえが不幸になる。わしがこの子と一緒に死んだら」と真剣